

奨学金や住宅支援は当たり前!? 中国人起業家を育てる 都市を探せ!

いまや日本全国で中国人起業家が活躍し、中国人留学生によるビジネスが展開されている。また、そうしたことに積極的に取り組んでいる地方都市もでてきた。留学生のうち6割、6万人弱が中国人といわれる今日、はたして、中国人はニッポン経済の新旗手となるか。さっそく、その実態をリサーチしてみた。

神戸ではビジネス交流会 大阪では起業家育成講座

広東省や海南省からの技術研修員を受け入れるなど、中国との交流に積極的なのが兵庫県。なかでも神戸市は、起業を目指す中国人留学生のために就業ビザ取得支援や住宅補助も行っている。その他、ポートアイランドにインキュベーションセンターを建設するなど、ベンチャー企業による「新たな中華街」形成促進プランを展開している。

市の産業振興局内にある神戸・阪神協議会事務局では、中のビジネス関連の機関誌『通

迅』を年4回発行。今年7月発行の『通迅』では中国の江蘇企業協会と神戸市のビジネス交流会、中国人留学生OBが運営する会社の神戸進出などの記事を掲載。市では「地元の中国系企業がビジネスパートナーを探すため、日本企業との交流会を年に3、4回開催している」と。中国系企業3〜4社を集め、各社が事業内容をブースで説明し、日本企業とのビジネスマッチングをはかる。市では「中国人が起業した製造業の会社と市内の卸や流通の業者が連携するなど、業務提携のキッカケになっている」と。

留学生の起業ならびに就業支援を行っているのが、大阪の「OSUアジア技術交流支援センター」。昨年12月、大阪産業大学が設立したNPO法人だ。

今年1月から3月にかけて経済や経営、商法など24講座を起業家育成講座として開催

「最後の講義では23人の受講生全員が、それぞれのビジネスプランを発表した」と事務局長の王英さん。中国の人件費の安さ



約50人もの中国人留学生が学ぶ北九州学術研究都市の早稲田大学キャンパス



に目をつけた日用雑貨の輸入会社や、経済発展が見込まれる上海で内装業の会社を起業するなどのアイデアが出たとか。

また、同大の就職支援には、長期休暇を利用した約2週間のインターンシップ計画があるという。大阪市のほか、大東市、東大阪市、八尾市の商工会議所に協力を要請し、留学生が民間企業で研修する予定だ。

石川に全国の留学生が集合 北九州は半導体ベンチャー

ところは変わって、北陸の金沢市。まずは、金沢のNPO法人「日本海国際交流センター」が、中国遼寧省の大連市を紹介する『ニイハオ！大連』を出版。それに応えるかたちで大連大がこの7月に『ニイハオ！金沢』を出版。それぞれの市をお互いに紹介。『ニイハオ！金沢』には

大連大学と金沢大学、金沢医科大学、大連市と石川県内の企業との交流について日本語と中国語で記事が掲載されている。

そもそも、このやりとりは産官学の国際交流事業を推進する日本海国際交流センター理事長である古賀克巳さんと大連大学の交流がキッカケ。いまでは古賀さんが会長を務める医薬品販売エーオン、株式会社アルプにも中国人の社員を受け入れているという。

また、石川県では毎年7月末からの約1週間、外国人留学生対象の「ジャパンテント」という国際交流イベントが開催されている。地元の民家にホームステイし、これまで延べ約5400人も参加。「輪島塗りを見て、もつと石川県のことを勉強したくなった」。「大都会の東京や大阪とは違う、地方ならではの個性

的な魅力を感じた」などの声が。留学生の興味を引きつけ、所期の目的を達成している。

そして九州の玄関口、北九州市では、半導体関連の留学生起業家が誕生しそうな兆しが。

アジアの半導体設計拠点となることを目指して、北九州学術研究都市に早稲田大学、北九州市立大学、九州工業大学が集結。現在、早稲田大学だけでも50人、全体では約200人も中国人留学生がいるという。

学術研究都市では半導体関連企業を誘致し、産学連携での半導体設計の研究、開発を進めると同時にベンチャー起業家の育成、支援にも積極的。市内での起業を条件に、2年間で最高2400万円が支給されるベンチャー起業家の支援制度がある。起業後は企業と大学の研究センターが同居する産学連携センターをオフィスとして利用することも可能という。

北九州市東京事務所の藤原則夫所長は「支援制度の活用は大歓迎。留学生が市内に19社ある半導体関連企業で働きながら研

究ができるような応援もしていきたい」と。

今後は中国人起業家や中国系企業と連携したビジネスが急増してくると予想される。そのためにも、この種の留学生のための起業支援は地方経済活性化にもつながりそうだ。

神戸、大阪、石川、北九州につづく特色ある留学生への支援を行う自治体が増えていくことに期待したい。

日本で学ぶ留学生の5人中3人が中国人！

文部科学省の「留学生受入れの概況(02年度版)」によると、02年5月1日現在の留学生総数は9万5500人。前年度から1万6738人増加している。総数、増加数ともに過去最高。そのなかでダントツに多いのが中国からの留学生だ。5万8533人は全留学生に占める割合の61.3%を占める。

留学生出身国の上位5カ国 / 前年比			
中国	5万8533人	/	1万4519人(33%)増
韓国	1万5846人	/	1121人(7.6%)増
台湾	4266人	/	14人(0.3%)増
マレーシア	1855人	/	82人(4.5%)増
タイ	1504人	/	93人(6.6%)増